

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	272600396		
法人名	社会福祉法人三恵会		
事業所名	グループホームくもりの郷		
所在地 (電話番号)	〒039-4401 青森県むつ市大畑町大赤川29番地4 (電話) 0175-34-5525		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 12月 12日	評価確定日	平成 21年 1月 15日

【情報提供票より】(平成20年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造垂鉛メッキ銅板葺平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83.4 歳	最低	76 歳
		最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険 大畑診療所
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高齢者が住み慣れた地域で暮らせるようにと開設したホームは、利用者の家族そして地域との絆を大切にするという理念のもと、利用者が笑顔で楽しく安心して生活できるようケアに取り組んでいる。ホームは森林に囲まれ住宅地から離れた場所にあるため、近隣住民との日常的な交流は殆どないが、買物やドライブなど外出する機会を設けたり、地域のイベントに参加し住民とふれあう機会を大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	居心地よく過ごせる居室の配慮について、職員間で話し合い、家族に対し使い慣れた物や好みの物などの持ち込みについて再度アプローチしているが、持ち込みするまでに至っていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日々のケアを振り返りながら、全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの取り組みや行事、外部評価の報告などを参加者と情報交換している。提出された意見はホームの運営やケアの参考にしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族の面会時に意見や不満、要望など会話を通じて引き出し、また第三者委員会を設け、質の向上につなげている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが住宅地から離れた場所にあることから日常的に交流を図る場面は少ないが、買物やドライブ、地域の行事に積極的に出向いて地域とのふれあいを大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と家族、地域との絆を大切にするという独自の理念を職員で作上げ、ケアに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員で作上げた理念であるため共有されており、個々で心に留めて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホームが住宅地から離れた場所にあることから日常的な交流は少ないが、買物やドライブ、地域の祭りや小学校の学芸会などに積極的に出向いて住民と交流を図っている。また、ホームの行事に招待したり、山菜採りで周辺を歩く方に声をかけ、気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りをしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価をすることで、日々のケアを振り返る機会となっている。外部評価実施後は、結果をもとに具体的に対策を検討し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、民生委員、町内会長、家族、消防団長等の参加のもと、ホームの取り組みや行事、外部評価の報告などを情報提供し、意見交換をしている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議が週末の開催のため、市担当者の参加が難しいが、定期的に市担当者のもとに出向き、運営状況を報告し情報交換している。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的にホーム内で研修の機会を設け、権利擁護に関する制度について学んでいる。現在利用している方はいないが、説明や相談に応じる体制はある。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にホーム内で研修の機会を設け、虐待について学んでいる。『虐待かな？目安箱』を設置し、会議で話し合うことで共通認識をもち、日々虐待防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項に基づいて、運営方針を利用者、家族にわかりやすい言葉を用いて説明し、意向等を確認している。特に不安を感じている退去時の条件については時間をかけ説明し、同意を得ている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に暮らしぶりや身体状況について報告している。面会が少ない家族へは、電話で連絡している。金銭出納簿は半年に1回領収書とともに送付している。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や不満、要望などを会話をしながら引き出すようにしている。苦情があった場合は、対応フローチャートがあり、スムーズに対応できるようにしている。また、第三者委員会を設けている。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限としているが、やむを得ず異動がある時は引継ぎの時間を設け、職員の連携を通して利用者が安心して生活できるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修年間計画を作成し、内部研修に積極的に取り組んでいる。また、外部研修へも参加する機会を設けている。外部研修参加者は職員へ伝達研修をし、質の向上につなげている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの研修会などへ参加した際に、参加者同士で情報交換することで、サービスの質の向上のために参考にしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>安心してサービスが利用できるように、入居前に生活歴や楽しみごとなどの情報収集をし、家族と相談しながら工夫して対応している。入居後は不安や緊張を和らげるために、コミュニケーションを大切にしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>地域の習慣や調理方法、昔ながらの知恵などを話題にしなが、学びあう気持ちを大切にしてコミュニケーションを図っている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日をどう過ごしたいか、何をしたいのか、などその都度意向を確認している。集団生活であると周囲の意見に合わせ、本音を話しにくいこともあるため、1対1でコミュニケーションをとることも大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向をふまえて、日常生活の情報や医療機関等の情報を参考に、全職員で話し合い、計画作成担当者が中心となって介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が安定している場合は、年1回介護計画の見直しを行なっている。毎月援助記録表を作成し、急な変化がある場合は、一時的なものか判断し、必要があれば介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の希望に応じて、受診の送迎や外出支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医での受診を継続して行っているが、希望により専門医を受診することもある。協力医院やかかりつけ医と連絡をとりあっている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に重度化した場合の対応について説明している。身体状況に変化が生じ、介護や医療処置が必要になった際、十分説明し施設紹介などの支援体制がある。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入浴や排泄介助時は声がけや対応などプライバシーに配慮するよう努めており、居室へ入る時もノックしてから入室するなどしている。記録等の個人情報についてもキャビネットに入れ保管している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>おおよその日課はあるが、コミュニケーションを図りながら希望を聞き、一人ひとりのペースを大切に、できるだけ希望に添えるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>下ごしらえや味付け、盛り付けなど利用者のできることを引き出しながら職員と一緒に準備している。週1回のおやつの日が楽しみの一つとなっている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的に週4日入浴日を設けているが、体調が優れない方等は別の日に入浴している。入浴用品が個々に準備されているため、馴染みのものを使用して入浴ができる。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>畑や花壇の手入れ、掃除や食事の準備など、これまでの生活場면을延長した役割がある。また、編み物やカラオケ、作品作りなど趣味や楽しみ事へのアプローチもしている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出する行事が多いため、それ以外は室内で過ごすことが殆どだが、週2回の買物時は声をかけ、希望者は一緒に外出している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にホーム内で研修の機会を設け、身体拘束について学んでおり、実際に身体拘束も行なわれていない。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員が連携しながら十分見守りをしているが、安全確保のためにセンサーによるアラームを設置し、夜間のみ施錠している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと年2回利用者を含めた避難訓練を実施し、併設施設ともホットラインがあり、防犯協力体制がある。利用者の身体状況に合わせた誘導方法が、救助隊員や併設施設職員も把握できるよう明示している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスに配慮して職員が考え、併設施設の栄養士が確認している。下膳時に残食を確認し、1日のおおよその食事・水分摂取量を把握している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会を設け、マニュアルを作成し、実技を交えて研修会を開催している。外出後のうがい手洗いを励行し、手すりやドアノブ等の除菌を毎日行なっている。		

外部 評価 値	自己 評価 値	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>窓から四季の移り変わりを感じることができ、室内の装飾も変えている。畳の小上がりやソファなど、好みの場所で過ごせる工夫があり、テレビの音や湿温度などに配慮され居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの物の持ち込みをすすめているが、居室にベット、クローゼットが設置されており、必要最小限の物以外に持ち込まれることは殆どない。</p>		<p>本人、家族へこれまで使い慣れ親しんだ物を利用することの意図やメリットを伝えるなど、利用者が居心地良く過ごせるよう今後も働きかけていくことに期待したい。</p>

 は、重点項目。